

2.3 積雪・降雪の将来予測

【ポイント】

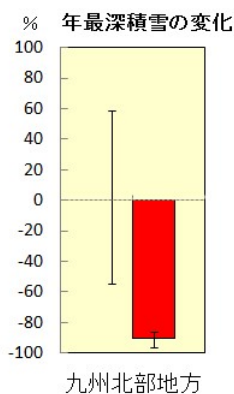
- 九州北部地方の年最深積雪、年降雪量は、それぞれ約9割減少する。

本項では、最深積雪、降雪量の変化についての RCP8.5 シナリオによる NHRCM05 を用いた予測の特徴を記す。なお、地点データの存在する九州北部地方の予測について記載する。

2.3.1 最深積雪

図 2.3-1 および付表は、九州北部地方でみた現在気候と将来気候の年最深積雪の変化率を示したものである。また、年最深積雪の変化率の分布図を図 2.3-2 に示す。

年最深積雪は約 91%の減少で、統計的に有意な減少となっている。分布図では、九州北部地方は全般に減少している。



	年
九州北部地方	-90.6 (-97.1 ~ -86.3)

図2.3-1 および付表 九州北部地方の年最深積雪の変化（将来気候の現在気候に対する変化率、単位：%）

棒グラフは将来気候と現在気候との変化率、縦棒は年々変動のばらつき（年々の値が約 68%の確率で出現する幅）（左：現在気候、右：将来気候）を示す。右の付表は変化量の増加（減少）および年々変動の幅の数値を示し、その変化量が信頼度水準 90%以上で有意の場合は水色（オレンジ色）に塗りつぶしている。

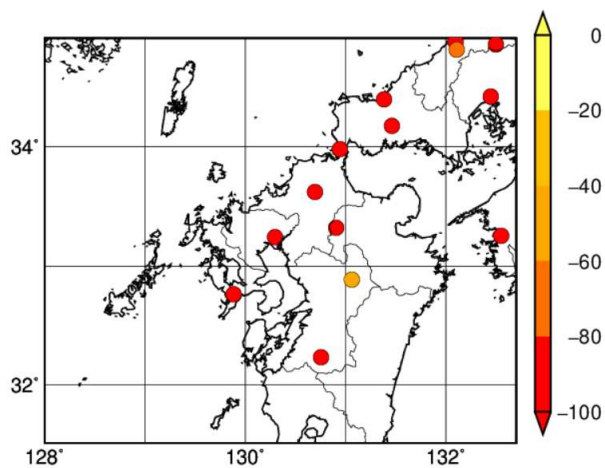


図 2.3-2 九州北部地方の年最深積雪の変化（将来気候の現在気候に対する変化率）
（単位：％）

2.3.2 降雪量

図 2.3-3 および付表は、九州北部地方でみた現在気候と将来気候の年降雪量の変化率を示したものである。また、年降雪量の変化率の分布図を図 2.3-4 に示す。

年降雪量は約 94%の減少で、統計的に有意な減少となっている。分布図では、九州北部地方は全般に減少している。



図2.3-3 および付表 九州北部地方の年降雪量の変化（将来気候の現在気候に対する変化率、単位：％）

棒グラフは将来気候と現在気候との変化率、縦棒は年々変動のばらつき（年々の値が約 68%の確率で出現する幅）（左：現在気候、右：将来気候）を示す。右の付表は変化量の増加（減少）および年々変動の幅の数値を示し、その変化量が信頼度水準 90%以上で有意の場合は水色（オレンジ色）に塗りつぶしている。

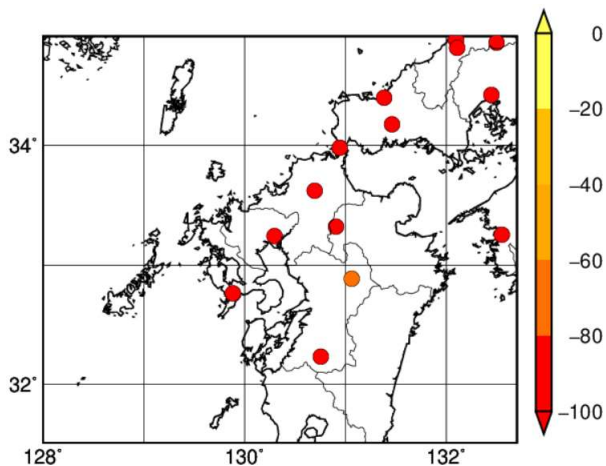


図 2.3-4 九州北部地方の年降雪量の変化（将来気候の現在気候に対する変化率）
（単位：％）